

## 山王祭

日吉大社は、山王祭で有名です。この活気あふれる年に一度の祭典は1200年以上行われており、湖国三大祭のひとつでもあります。祭りは3月上旬から始まりますが、メインイベントは4月12日から14日にかけて行われ、通常は桜の花が咲くなか開催されます。

4月12日の夕方、八王子山の頂上付近にある神社の建物から2基の神輿が運び出されます。神社の建物から日吉大社までの距離は徒歩で30分ほどですが、松明が燃やされ、担ぎ手たちのかけ声が響く行列は迫力満点です。神輿の中の神々は、結婚するために山の麓まで運ばれます。日吉大社には400年前の神輿が7基ありますが、祭りで使われるのは40年ほど前に造られた神輿です。

4月13日、日吉大社の僧侶が、日本最古とされる地元の小さな茶畑から採れたお茶を、4社の神輿に献じます。日中は、甲冑を着た子供たちと一緒に周囲の通りを歩く花渡り式があります。暗くなると、竹を束ねた大松明が点火され、参加者たちは通りを駆け抜けて、竹の松明を運んだり、木の松明を手を持って回しながら、神社の境内へと入っていきます。走ってきた人々は神輿の前に並び、陣痛の苦しみを表現するように神輿を激しく揺り動かした後、地面に落とします。これは、結婚した神々の間に子供が誕生したことを表しています。最後に、担ぎ手たちは神輿を持ち上げて、暗い境内のなかを叫んだり、かけ声をかけながら駆け抜け、大勢の群衆がそれに対して声援を送ります。

最終日の4月14日には、神輿が神社から山腹を下って湖へと運ばれ、行列はより穏やかなものとなります。神輿は船に乗せられ、湖を渡った後、船から降ろされ、日吉大社に帰っていきます。